

行 政 視 察 報 告 書

参加議員	中村 美津緒
調査期間	令和 8 年 4 月 26 日（日）～令和 8 年 4 月 27 日（月）
調 査 先 及び 調査事項	大分県佐伯市 寡婦・寡夫医療費助成事業について オーガニック給食について

視 察 概 要	
■ 調査先①	大分県佐伯市
■ 調査事項	寡婦・寡夫医療費助成事業について オーガニック給食について
■ 調査内容	○視察日時：令和 8 年 4 月 27 日（月）午前 10 時から ○視察項目：寡婦・寡夫医療費助成事業について オーガニック給食について ○対応者：こども福祉課 ○質問事項： 【事業導入に至った経緯について】 佐伯市は 2005 年 3 月 3 日に 1 市 5 町 3 村が合併し、誕生。 合併に際し、5 町 2 村において、寡婦医療費助成に関する条例が制定されていたことから、新市においても引き続き制定されたもの。 【事業開始に向けた検討過程について】 詳細な過程については、不明だが、60 歳定年退職後に、かつての老人保健制度（70 歳以上の高齢者に医療を提供する）への繋ぎとして、社会的・経済的に弱い立場にある人の負担を軽減するために制定された。 【事業概要】 次の条件をすべて満たす人 ○対象者 ・かつてひとり親家庭の母又は父として 1 8 歳未満の児童を扶養していた人 ・現在、配偶者がおらず一人暮らしの人 ・60 歳以上 70 歳未満の人 ・所得税が非課税の人 ・医療費保険の被保険者 ○医療費の助成 保険対象医療費のうち自己負担の 1/3 を助成

○財源

補助なし（一般財源で対応）

○対象者推移

年度	当初予算額	決算（見込）額	現況届対象者数	申請件数
R 3	550, 000	192, 400	11	43
R 4	342, 200	137, 800	9	26
R 5	450, 000	175, 100	8	26
R 6	300, 000	98, 800	5	18
R 7	296, 000	61, 900	6	12

○課題について

人手不足や年金支給時期の引き下げ等、高齢世帯を取り巻く環境の変化から、60～69歳の世代がリタイアをせず、継続して就業をすることが多くなり、課税世帯となることから助成要件に合致しないケースが考えられる。制度設計が古いため実情とそぐわない部分がある。

また、20代で出産し、児童が成人した後に、制度を利用するためには、概ね20年程度の開きがあるため、対象者の管理が難しい。

【オーガニック給食について】

○対応者：ブランド推進課、農政課、体育保健課

○質問事項：

【オーガニック給食導入に至った経緯について】

- ・平成20年12月に大分県初となる佐伯市食育推進会議条例を制定。
- ・農業や水産、流通・観光・飲食業、地域づくり団体、PTAの代表、有識者など20人の委員による「佐伯市食育推進会議」を発足させ、食育や食のまちづくりの推進について審議を重ねている。
- ・平成21年3月には、大分県で初めてとなる「食のまちづくり条例」を制定し、食を通じた人材育成と地域振興に取り組んでいる。
- ・令和2年3月に「さいきオーガニック憲章」を制定。

【佐伯市の学校給食の現状】

現在（令和7年度）は、5つの共同調理場で4,798食を提供している。

地産地消に係る課題として、食材の供給体制の確保があげられる。統廃合によるセンターの大型化により食数の多い給食センターでは、規格が揃いにくい有機野菜は処理に時間がかかり、積極的な使用が難しく、使用する有機野菜が限られ、安定的な供給が難しいところがある。